

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400481		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・丸の内		
所在地	〒501-6244 岐阜県羽島市竹鼻町丸の内2-13-5		
自己評価作成日	H22年5月26日	評価結果市町村受理日	H22年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400481&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	H22年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望にできる限り答え、外出・外食・買い物・カラオケ・神社仏閣への参拝など積極的に出掛け喜んでもらっている。 ・地元老人クラブと音楽療法を通して交流を深めている。 ・事業所内では体操や作業療法、公園への散歩を毎日の行事としている。 ・毎月ご家族様へ生活便りを発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市の中心の生活至便な住宅街にあるホームで、周囲には、季節の花が美しい大きな公園や喫茶店、文化センターや商店などがある。イベントやお花見、お祭り、外食や買い物、毎日の散歩で積極的に地域に出かけており、地域も優しい目線でホームを見守っている。利用者は生き生きと毎日を過ごし、職員も利用者に対して自立の支援を積極的に行っている。運営推進会議には、市職員や市会議員、民生委員など多様なメンバーが集まり、ホームのケアについても提言がなされている。音楽療法等ホームの行事には、地域の老人クラブの方や家族も参加しており、地域にむけてホームが開放されている地域密着型の代表的なホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とその内容は玄関と廊下に掲示しております。管理者と職員はミーティングや日々の申し送りの中でその思いを共有しております。	夢家族の共通理念として、「安心感」を玄関に掲示している。管理者と職員はミーティングや申し送りで、利用者の気持ちに沿うような、具体的なケアについて話し合い、より良いケアの実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内老人クラブとの音楽療法を通じての交流が50回となりました。地域のイベントには利用者全員で参加して町内の方とも顔なじみになる。	音楽療法等ホームの行事には、家族や地域の老人クラブの方も参加しており、地域に向け開放されている。藤まつりなどのイベントに参加したり、地域の商店街にも車椅子で出掛けるなど、ホームの認知に努力し、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法やイベントを通して常に接して下さっているおかげで認知症の人に対する理解や手助けをしてくださっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地元市議員さんや民生委員さんが参加して下さり忌憚のないご意見を伺う事ができサービス向上に生かしている。	2ヶ月に一度の運営推進会議には、家族、市職員、民生委員、市議員等が参加している。会議では職員の待遇改善の進言があったり、ホーム近くの道路の危険箇所対策が話し合われたり、また会議のメンバーが、話題に出た音楽療法や避難訓練に参加するなど、サービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課からは運営推進会議への参加をして頂き、福祉課からは生活保護利用者の定期的見回りや、制度改正についての指導を頂く。	運営推進会議や認定更新の機会など、市職員のホーム訪問の際は、ホームの取り組みやケアサービスについて、理解を深めてもらっている。訪問の都度感想をもらい、運営の参考にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はなく、開放しております。身体に危険が予測される場合は、ベツト柵のみご家族の了解を頂き対応しています。	玄関の施錠はなく、ホールも暑い時期は開け放たれている。管理者が認知症のコミュニケーション技法の研修を受け、職員と、利用者の気持ちに沿うケアについて認識の共有を図っている。利用者が不隠な時も、傾聴と共感で受け止めるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修を受けております。事業所内でも全員で勉強会を実施。防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修を受けています。事業所内では勉強会で個々の利用者に合わせた対応を話し合います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は十分な説明がなされています。病状によりやむなく退所の場合も本人・家族と十分な話し合いをします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を管理者や職員全員がよく理解してケアマネージャー・代表者・必要があれば掛かりつけ医とも連携してケアに取り入れている。	玄関に意見箱を置き、入居時には意見や要望を書いてもらっている。また、家族の面会時には、手渡しで意見や要望を聞く紙を渡している。もらった意見については職員で話し合い、ケアに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の朝夕の申し送りで職員の意見をしっかりと聞きその状況をケアマネージャー・代表者に伝え毎月のミーティングにもかけケアに取り入れている。	代表者、管理者はミーティング・ケア会議等での職員の意見をすぐに取り入れる姿勢を持っており、職員の提案がケアに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員個々は向上心を持って働けるよう福利厚生などミーティングで話している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人ひとりの力量や状況に合わせた法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修で同業者と積極的に交流している。同業者の実施する勉強会にも参加させてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所段階で本人から要望、不安なことに耳を傾ける。1日でも早くホームの生活になじめるよう勤める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人が説明できない場合は家族としての要望を伺い、安心してお任せくださるよう関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームに入居されることで一番に望んでおられる事を見極めサービスの中に取り入れる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員全員が常に明るい雰囲気の中で介護をしており、共に暮らす家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族によって毎月の音楽療法に参加して共にうたわれたり毎月の面会で外食にいかれたり絆を大切にしてみえます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望する場所や人に自由に行けるよう外出援助をしている。遠方の場合は電話でゆっくり会話していただく。	前施設の職員や友人の訪問の際は、部屋で自由に過ごしてもらったり、おちよぼ稲荷やカラオケなどなじみの場所に出掛けて行く等の支援をしている。また家族への電話もホームからかけ、家族との関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や身体状況に合わせて関わりが持てるよう支援しており散歩や食事で支えあう姿が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じいつまでも本人家族の相談や支援に努める用意がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と面接し、要望の把握を行います。発語できない方などは状況から判断し、スタッフ検討します。	入居時の聴きとりによる把握は勿論のこと、日々の関わりの中で利用者の思いや暮らし方の希望等を把握している。会話がうまく出来ない利用者には、表情や動作、利用者のモニタリング記録を分析し、思いを察する努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入居にいたるまでの生活歴から好みを把握し、できる限りホームの中で近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者のその日の思い、身体状況に合わせて1日のサービス内容を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送り、家族との連絡。毎月のミーティング等を通じ現状に添った介護計画を作成しています。	面会時等に家族から意見を聞いていて、月1回職員間で検討し、一人ひとりに合った介護計画の作成をしている。よりよいケアに繋げるために見直しも全職員で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の気づきの申し送りノートを活用して職員間の共通意識を確保します。変化に対応した計画を見直します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の個性や家族の事情に配慮してその情報を職員間で共有。臨機応変な対応を取れる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化 医療 商業 緑 と暮らしを支えるすべての資源に恵まれた環境の中で楽しく安全な生活ができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人家族の要望するかかりつけ医を指定する事ができ事業所もこれを支援する。また身体状況によっては市民病院へと連携が取れる。	これまでのかかりつけ医の希望に対しては受診付き添いなどの支援をしている。現在ホームと連携しているクリニックの受診結果は、定期的及び状況の変化の際に、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体状況によっては、かかりつけ医と連携をとり指示をあおぐ。必要に応じて市民病院へと紹介してもらう事になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、毎日面会を行い安心して治療に専念していただく。看護職と情報交換し早期退院を目指す。必要に応じて家族とも連絡を取る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者に対し家族・ケアマネジャー・代表者・管理者と十分な話し合いがなされ医師の意見も取り入れてできる限り希望に添う。	入居利用時、体調の変化、緊急搬送時などに事業所のできることを説明し、家族の思いを聴き、その時々相談しながら重度化や終末期への対応を進めている。	重度化や終末期への対応は早い時期から計画的かつ段階的に進められると家族の安心感も得られ、対応もより円滑になると思われる。検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て事業所ですべての職員が救命訓練を行っており利用者の急変に対応する事ができる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は職員利用者全員で実施。マニュアル緊急連絡網も作成。避難用の食料と水も確保。近隣の住民にも訓練の参加を呼びかけている。	年2回の消火、避難誘導訓練が実施されている。また、より実践的な訓練の取組みとして夕方に、夜間を想定した訓練も行っている。地域の防災訓練はないが老人会長等の協力のもとで実施を呼びかけて協力体制作りを働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの個性や身体状況に合わせた声掛けや介助を行いプライバシーを保っている。	上から目線ではない、やさしい言葉掛けを心がけ、利用者一人ひとりを尊重しようとして対応している。尿とりパッドをトイレ内に置き他の利用者に気づかれない配慮をしたり、研修会を開催するなどして積極的に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日その日の利用者の希望や自己決定を尊重してできる限り叶えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や身体状況を優先してその日が満足な一日であるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望があれば衣料品店で買い物の付き添い。理美容院での身だしなみも希望の日に付き添う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度の外食は利用者全員が好みのものを注文して職員と一緒に楽しむ。ホームの食事は希望のメニューがあればその日にお出しする。片付けは毎日手伝ってくださる。	日々の食事はもとより外食も希望に添う努力がなされている。外食は利用者の大きな楽しみの一つとなっていて、外食時の話題では利用者の笑顔が印象的であった。食事の後片付けも利用者が能力に応じて参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量と水分量は個人記録に記入して確認している。1人ひとり食事量が好みが違うので個人に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の食事のときに口腔ケアの援助をしている。その方法は一人一人違い、イソジンでの口の中の清掃の人もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	朝昼夕の食事・おやつの前に声掛けをしてできる限りトイレでの排泄が自立できるよう支援している。オムツの人も定期的にチェック。パットのみの利用にしている。	利用者一人ひとりに合わせ、排泄の自立を考えている。尿とりパッドの処理を自分で行えない方には職員が行ったり、オムツを優先するのではなくリハビリパンツを利用するなどして自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	偏食気味で栄養バランスの悪い利用者に対しては調理に工夫を凝らしたり野菜ジュースを飲んでもらい予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は一応は決めているものの利用者の心身の状況に合わせてたびたび変更もして無理強いはいしない。	入浴日としては決めてあるが、利用者の体調、意向に合わせて変更し、利用者一人ひとりに沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員はみんな個々の1日の暮らし方を把握しており散歩・テレビ・運動と自由に選び休息もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が薬の内容を把握しており、服薬は手渡しの形を取っている。身体状況に合わせた薬の変更はかかりつけ医にお願いしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけや掃除などその人に合わせた役割を持ってもらっている。カラオケ・映画・神社仏閣の参拝など現役だった時の趣味を今の楽しみとしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店・外食・買い物など積極的に外出援助をしている。遠方場合は介護車を活用してできるだけ希望にそえるように支援している。	入浴日や雨の日以外は毎日のように共に散歩をしている。利用者の希望があれば喫茶店や買い物にも出かけている。遠方への外出時はホームの車椅子に対応した自動車も活用し、全員が外出を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる人にはお金を持ってもらっている。トラブルが発生しないよう、所持金を把握しておく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り家族や友人に電話を掛けてもらっている。手紙は便箋の用意・投函の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の中で利用者同士のトラブルが発生しないよう配慮しており、身体状況に合わせた個々の椅子も用意している。	利用者の寛ぐ居間は日当たりよく開放的である。ソファや背もたれ椅子、玄関先には地域の方も利用することができるベンチを置き、親しみのある空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間の中でも作業療法をしている人やテレビを見ている人運動をしている人と思いい思いの過ごし方をしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の部屋が家族の写真や記念品がおりてあり本人の好みの部屋となっており个性的である。	入居時には、使い慣れたものの持ち込みを勧めている。利用者の部屋は仏壇や写真、賞状、花などで思い思いの使い方をしている。また転倒の恐れのある方の居室には畳を敷くなど、安全な暮らしへの配慮が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部のすべての場所に手すりがつけられておりなるべく一人で排泄入浴ができるようになっている。		